

私たちに寄り添い、道しるべとなるキャンパスガイド

表紙全体に桜が満開な日本大学生産工学部の門の写真を使い、いつこのキャンパスガイドを開いても新鮮な気持ちと初めてのワクワクな気持ちを思い出せる。そして少し湾曲した写真にすることで臨場感を与え、より実際に見ているような感覚が持てる。

表紙の文字は、生徒自身が描いたような手書き感あふれる字体にし、何年立っても愛着が湧く。青空に白い文字にすることで雲のようにも見え、いつまでも成長（雲は日々動いているため）し続けていくという気持ちを持つことができる。

背表紙のデザインはあえて、レンガのテクスチャのみにすることで普段目にするところに立てかけたくなるようなものにし、いつでもすぐ取り出せるようになる。年月が経っても奥底に眠らないようなものになる。

裏表紙は、日本大学生産工学部の門ではあるが、桜が主な写真となっている。しかし、桜の向こうには生産工学部のシンボルともいえる大高正人が設計した、シンメトリーな図書館が顔をのぞかせ、桜の落ちた影と相まって、生産工学部の良さが詰まった一枚となっている。ここには各学科・系の名前と住所が地面に書いてあるかのようなものにしており、一つの写真としての要素を失わせないものにした。

これらが一冊のキャンパスガイドとなったときには、各々にとって思い出の一つになるような、この大学に入学した初期の気持ちと決意が詰まったものになるような、そんな一冊になることを願っている。



Campus Guide 2021
日本大学 生産工学部

